

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第5区分

【発行日】平成27年1月8日(2015.1.8)

【公開番号】特開2013-231249(P2013-231249A)

【公開日】平成25年11月14日(2013.11.14)

【年通号数】公開・登録公報2013-062

【出願番号】特願2012-103908(P2012-103908)

【国際特許分類】

D 0 4 H 1/559 (2012.01)

D 0 4 H 1/4374 (2012.01)

B 3 2 B 5/26 (2006.01)

D 0 4 H 1/70 (2012.01)

【F I】

D 0 4 H 1/559

D 0 4 H 1/4374

B 3 2 B 5/26

D 0 4 H 1/70

【手続補正書】

【提出日】平成26年11月18日(2014.11.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 4】

【特許文献1】特開2008-148834号公報 (JP 2008-148834 A)

【特許文献2】特表2008-526552号公報 (JP 2008-526552 A)

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 1】

図5を参照すれば、接合部13は、横方向Xへ延びる仮想線19に沿って、離間して複数形成されるとともに、仮想線19は縦方向Yへ離間して複数設けられる。隣接する仮想線19において、それぞれの接合部13は縦方向Yにおいて重ならないように、いわゆる千鳥模様を描くように配置される。このように配置されることによって、弾性シート11では、仮想線19に沿って横方向Xへ延びる畝状の第1凸条部15が形成される。非弾性シート12では、仮想線19に交差する皺が形成され、この皺が縦方向Yへ延びる第2凸条部17とされる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 4】

複合シート1の横方向Xにおける伸長倍率は、約1.0~4.0倍、好ましくは1.2~3.2倍である。伸長倍率は、測定対象サンプルの伸長状態での横方向Xにおける寸法

を、自然状態での横方向Xにおける寸法で除することにより算出する。伸長状態とは、複合シート1の非弾性シート12の皺が延びて第2凸条部17と第2凹条部16とがほぼ平行に状態にまで伸ばした状態をいい、自然状態とは、伸長状態を解除し、20%RH雰囲気下に60分以上放置した後の状態をいう。